

### 昭和22(1947)年

『学習指導要領 音楽編』(試案) 文部省 請求記号 C53-556

戦後の音楽教育はこの年に示された『学習指導要領 音楽編』の目標・内容・方法をもって出発する。対象の学年は第一学年から第九学年と書かれている。目標の第1は「音楽美の理解・感得を行い、これによって高い美的情操と豊かな人間性とを養う。」これまで国家目的に従属していた音楽教育を解放し、芸術教育としての音楽教育を確立することが新方針の根底にある。

### 昭和26(1951)年

『中学校・高等学校 学習指導要領音楽科編』(試案) 文部省 請求記号 C15-446

この年の改訂では中等教育という立場から中学校・高等学校が一本化された。改訂の中心は音楽科と教育基本法、学校教育法との関連を明確にしたこと。第1章第1節は「教育課程における音楽科の地位」。目標は「音楽経験をとおして、深い美的情操と豊かな人間性を養い、円満な人格の発達をはかり、好ましい社会人としての教養を高める。」委員として本学の岡本敏明教授が協力している。

### 昭和34(1959)年

『中学校音楽指導書』文部省 請求記号 C16-198

連合軍の占領が終了後、初めて行われた改訂。教育課程全般から小学校との関連が強調された。教材では初めて歌唱と鑑賞で共通教材が示された。目標のは「音楽の表現や鑑賞を通して美的感覚を洗練し、情操を高め、豊かな人間性を養う」。委員として本学の佐瀬仁教授が協力している。

### 昭和45(1970)年

『中学校指導書 音楽編』文部省 請求記号 C16-849

1968年から1970年にかけて小・中・高校の学習指導要領が全面的に改訂された。新たに<基礎>という領域が設けられた。目標は「音楽性をつちかい、情操を高めるとともに、豊かな創造性を養う」。作成協力者として本学の有馬大五郎学長、板野平教授、村田武雄教授が協力している。

### 昭和53(1978)年

『中学校指導書 音楽編』文部省 請求記号 C34-047

改訂の特徴は内容の精選で技術的な細かい指導事項等が削除され、基本的な事項に精選された。共通素材の削減と改善。<君が代>が国歌として明記されるようになった。目標は「表現及び鑑賞の能力を伸ばし音楽性を高めるとともに、音楽を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う」



中学1年の音楽教科書  
戦後から昭和まで学習指導要領の改訂の年を中心に



1945 太平洋戦争終わる・GHQ横浜に設置される/1947 新学制による小・中学校発足

昭和22(1947)年『学習指導要領 音楽編』(試案)

教育芸術社(請求記号 C30-910)・国立音楽大学/国民図書刊行会(請求記号 J95-139)

中等学校教科書(請求記号 C15-479)・全音教科書(請求記号 C54-711)

1948 新制高等学校発足

1950 朝鮮戦争起こる

昭和26(1951)年『中学校・高等学校 学習指導要領音楽科編』(試案)

音楽之友社(請求記号 C15-479)・教育芸術社(請求記号 C50-911)・

教育出版(請求記号 C16-421)・教育図書(請求記号 C15-567)

国立音楽大学/国民図書刊行会(請求記号 C15-484)・

大日本雄弁会講談社(請求記号 C16-427)東京音楽書院(請求記号 J95-136)・

東京書籍(請求記号 C30-852)・二葉(請求記号 C30-901)

1952 対日講和条約・GHQ解消

昭和34(1959)年『中学校音楽指導書』

音楽之友社(請求記号 C30-845)・音楽教育図書(請求記号 C30-040)・

学校図書(請求記号 C30-902)・教育芸術社(請求記号 C15-523)・

教育出版(請求記号 C15-516)・講談社(請求記号 C15-562)・

東京書籍(請求記号 C30-851)

1960 日米新安保条約調印

1964 東京オリンピック大会開催

昭和45(1970)年『中学校指導書 音楽編』

音楽之友社(請求記号 C13-414)・音楽教育図書(請求記号 C13-584)

教育芸術社(請求記号 C13-592)・教育出版(請求記号 C13-584)

1971 大阪万国博覧会/全国の大学で反安保闘争

1971 沖縄返還協定調印

1972 日中国交回復

1975 ベトナム戦争終結

昭和53(1978)年『中学校指導書 音楽編』

音楽之友社(請求記号 C33-993)・教育芸術社(請求記号 C30-023)・

教育出版(請求記号 C34-026)

1979 東京サミット開催

1980 モスクワ五輪不参加



## 国立音楽大学編修の音楽教科書

『OUR MUSIC』

昭和24年に国立音楽高等学校、国立中学校が設置された。その年に中学校と高等学校の教科書の編集が行われ検定に合格している。著者の欄には最初の教科書は国立音楽学校、昭和25年に大学に認可されたので以後は国立音楽大学と記されている。当時にしてはとてもモダンな表紙であり、合唱曲が多いのが特色。当時編集に携わった先生方は代表者有馬大五郎（50歳）、執筆者として岡本敏明（44歳）、野村茂（43歳）、服部龍太郎（50歳）。

昭和22(1947)年『学習指導要領 音楽編』(試案)

昭和24年～25年出版

われらの音楽中学1（請求記号 C15-414）昭和24年 日本教育図書/国立音楽学校

われらの音楽中学2（請求記号 C15-525）昭和25年 国民図書刊行会/国立音楽大学

われらの音楽中学3（請求記号 C15-409）昭和24年 日本教育図書/国立音楽学校

昭和26(1951)年『中学校・高等学校 学習指導要領音楽科編』(試案)

昭和28年～29年出版

われらの音楽中学1（請求記号 C15-484）

われらの音楽中学2（請求記号 C15-485）

われらの音楽中学3（請求記号 C15-486）

教科書に書かれてある  
<編修上の六つの特色>



## 参考資料

『文部省 学習指導書 第17巻 音楽編(4)』  
中村紀久二監修 大空社 平成3(1991) 請求記号 C58-358  
『中学校・高等学校器楽合奏指導書』(昭和26年)『中学校音楽指導書』(昭和34年)  
『中学校指導書音楽編』(昭和45年)の復刻が収録されている。

『音楽教育の歴史』(小学校音楽教育講座 2)  
音楽之友社 昭和58(1983) 請求記号 C35-719  
日本の音楽教育1世紀の流れが分かる。「日本近代音楽教育史の曙」から「世界の音楽教育とその理念」まで、複数の著者が執筆している。1853年から1981年までの「日本音楽教育史年表」がある。

『中学校 音楽科の新教育課程』(新教育課程双書・中学校篇)  
園部三郎編 国土社 昭和33(1958) 請求記号 C15-043  
占領終了後に始めて行われた昭和33年の学習指導要領の改訂について「改訂の意義と問題」を明らかにする。

平凡社『音楽事典』<音楽教育>の項目



### 音楽教科書の探し方

カード目録では<分類目録>を!

OPAC では<ローカル分類>を活用しよう!

OPAC の例) 中学教科書を探したい場合

1 資料の種類は<図書>を選び

2 <ローカル分類>に分類番号の XY-725b と入力しましょう。

注意: abc は必ず小文字で!

その他関連する分類番号

|             |         |           |
|-------------|---------|-----------|
| 日本の音楽教科書    | XY-725  | *教師指導書も含む |
| 音楽教科書小学校    | XY-725a |           |
| 音楽教科書中学校    | XY-725b |           |
| 音楽教科書高等学校   | XY-725c |           |
| 戦前の音楽教科書・唱歌 | XY-725d |           |

学習指導要領及びその解説 XY-726

小学校 XY-726a

中学校 XY-726b

高等学校 XY-726c

昭和の音楽教科書



2002.5.13~6.20